

2015. 12. 17 (木)

## 海に潜りながら愛について考える

森 久美子

### 海とラブラブ

皆さん、おはようございます。今月のテーマの「愛するということ」についてお話しさせていただきます。私が最近何を愛しているかという、たくさんあるのですが、きょうはその中でも「海」の話をしようと思えます。海っていうと夏のイメージがあるので季節外れと思われるかもしれませんが、そんなことはありません。季節を問わず、海、好きです。海を見ているだけでもいいものですが、特に海の中に入るのが好きです。もっというと潜るのが好きです。3年ほど前に初めてスクーバダイビングをしたのですが、去年あたりから自分用に器材を買ってみたりして、ときどき暇を見つけて潜りに行くようになりました。まだ初心者なので、今は、海に潜れるだけでもう嬉しくてしかたがないという感じです。恋愛でいうと、付き合い始めの最初の頃には、会えるだけで嬉しい！とか、声が聞けるだけで嬉しい！みたいな時期があるかと思いますが、私と海との関係は、今まさにそんな感じと言えるでしょう。

ところで、スクーバダイビングというと、よく「あの酸素ボンベ背負って潜るやつですか？」って言われるのですが、ボンベ、これはシリンダーとかタンクとか呼ばれることが

多いですが、あの中に入っているのは酸素ではありません。普通の空気を圧縮したものが詰めてあります。少し酸素の割合を高めてあるものもありますが、純酸素を詰めたらたぶん危ないです。これはきょうの話とは関係ないのでどうでもいいことなのですが、よく誤解されているみたいなので、この機会にちょっとっておきます。

### 海に潜るつもりじゃなかった

さて、私は今、海とラブラブといいますが、一方的に海を愛している立場なのですが、昔からそうだったかというそうではありません。先月、大学時代の友達と十数年ぶりに会ったのですが、「最近ダイビングやって〜」という話をしたら、みんなに驚かれて、「久美ちゃん、そんな人じゃなかったよね？ アウトドア派じゃなかったよね」とか「学生の頃なんて全然泳げなかったじゃない」とか、こちらがもうすっかり忘れていたようなことを、いろいろ言われてしまいました。言われてみれば、確かに私は学生の頃はインドア派でした。映画や音楽や演劇などが好きで、スポーツなど体を動かすことは自分とは違う種類の人のためのものかなと思っていて、それをけっこう態度にも出していたかな

と思います。私が通っていた大学では体育で水泳が必修で、25メートル泳げなければ夏休みに補習を受けなければならなかったのですが、その補習もしっかり受けました。一応、人並みに夏休みにみんなで海に行ったりしたことはありますが、泳げないのでずっと浮輪につかまっけてあまり楽しくないですし、確かにあまり海は好きではなかったです、当時は。ということをして、そのとき思い出しました。

では、そんな私がなぜ海に潜るようになったかといいますと、まず泳げないという問題ですが、これは25歳くらいの時にちょっとスイミングスクールに通ったらあっさり解決しました。べつに上手ではないですが、まあ普通に泳げるようになりました。泳げるようになって「泳ぐのってなかなか楽しいな」と思っていた頃に、たまたま沖縄の八重山諸島に旅行に行きました。黒島という、人間の数より牛の数が多いという、まあほんとに何も小さい島があるのですが、そこでたまたま時間があつたのでスノーケルをしました。そしたら海の中にいろいろなサンゴや魚がたくさんいて、それで海の中を眺めるのが大好きになりました。ただ、その頃は、スノーケルは好きだけど、ダイビングは講習を受けないといけないし器材も要るので「ちょっとハードルが高いな」と思っていました。ですが、スノーケル目的で南の島を旅していると、宿や食事や船などで、ダイバーの人たちとよく一緒にいるんですね。で、その人たちが、何を見てるのかわからないんだけど、なんだかやけに楽しそうなんです。『あの人たちはいったい何を見てるのだろう』というのがどうしても気になって仕方がなくて、それで始めてみたのが3年前です。ここまで

結構かかりました。でも、やってみたら、チャペルで海の話をしてよいかと思うぐらいとても楽しいので、やってみてよかったなと思っています。

### 年齢をとってみるのも悪くない

ここで、皆さんに言いたいことがひとつあります。私は皆さんよりもちょっと年齢をとっていますが、ここで声を大にして言いたいことは、年齢を重ねることのいいところのひとつとして、「愛するものが増える」ということがあると思います。先ほど、昔は海なんて好きじゃなかったと言いましたが、別に前は好きでも何でもなかったものを、ひょんなことから好きになったり、偶然に出会ったものが自分にとってとても大切な存在になったり、そんな経験がたくさんあります。ですから、もし今、「自分には愛するものなんて特に何もないや」と思っている人がいたとしても、「そのうち会います」ということを強く言いたいです。また「自分にはもう十分愛するものがあるし、これ以上はもう要らない」という人もいるかもしれませんが、その人にも「まだあるよ、もっと増えるよ」と言いたいです。いったい何が現れるのかはわかりませんが、クリスマスを前にしたこの時期というのは、そんな思いがけない贈り物みたいなものを持つ気持ちを、あらためて感じることができる時期ではないかなと思います。

もちろん、年齢をとる中で愛するものを失うこともあると思います。例えば、私は今、海に潜るということをごよなく愛していますが、私に最初にダイビングの話をしてくれ、海への興味を持たせてくださった方は、健康上の問題があつて今ではもう潜っていらっし

やいません。見ようによっては、この方は、一度は出会うことができた「海に潜る」という「愛すること」を、健康上の理由で手放されたように見えるかもしれません。ただ、愛するものとの関係が変わっていったとしても、それは完全に失われたわけではなく、愛するものにひとたび出会った経験は、その後も私たちの心を少しずつ温め続けてくれるものではないかと思います。そして、愛するものを今と同じ形で愛し続けようと思うならば、愛する側にもある程度の強さが必要なのだともいえるのではないかと思います。

## 愛と欲求

さて、このチャペルは、齢をとるのも悪くないという話ではなくて、海を愛することについての話なので、そちらに話を戻します。最初に、海というのは、夏だけではなく季節を問わずいいものだと思いましたが、実は、これもダイビングを始めてから思うようになったことです。それまでは、やはり、海といえば「青い空、青い海、白い砂、照りつける太陽！」みたいな、絵に描いたような海がいないって思っていました。でも、海って、当たり前だけど、1年365日そこにあるわけです。雨の日もあるし、荒れている日もあるし、冬は寒いです。そういう日々の中で、海の生き物たちはずっとそこに暮らしているのもいけば、季節ごとにやってきたり去って行ったりするやつもいるわけです。同じ海でも、コンディションによって全く違う姿を見せるということがわかると、いろんな海が見たいなと思うようになってきました。私は技術も体力も足りないのでも、そんなにいろんな海に入れるわけではありませんが、多少寒く

ても、うねりがあっても、自分にとって都合のいい絵葉書みたいな海だけじゃなくて、ありのままのいろんな海の顔を知りたいなとも思うようになりました。

このように言う、「何かを愛するようになると、そのありのままの姿を愛するようになる」みたいな、ちょっといい話のように聞こえるかもしれません。でも、きょうチャペルでお話しようと思ってこのことを考えているうちに、私は「いや、これって、そんなにいい話じゃないかも」という気がしてきました。海に限った話ではありませんが、何かを愛すると、対象に対して、「そのままいてほしい」と思いながらも、一方で、「もっと近付きたい」とか、「知りたい」とか、「触れたい」とか、「相互作用したい」とか、そういう気持ちが湧いてくるのは自然なことではないかと思えます。ダイバーの場合ですと「手付かずの海のままであってほしい」と言いながら、一方で、魚に近付きたいし、写真も撮りたいわけです。要するに、ちょっとでも対象とお近付きになりたいという気持ちが、やはりあるのです。先ほど、私は、絵に描いたような海だけではなく、いろいろな海の顔が知りたいと言いましたが、それも、言ってみれば、この「お近付きになりたい欲求」です。いろいろな海が知りたいというわがままな欲求に過ぎません。でも、「相手に近付く」ということは「相手に影響を与える」ということでもあります。ダイビングの話で言えば、人間というのはもともと海で生活している生き物ではありませんから、そのような異物が海の中に入るといことは、それ自体が生態系に無関係ではありえません。海という存在は懐が深いので、多少私たちが欲求のままに行動しても、それを受け入れて

カバーしてくれている、というのが実際のところではないかなと思います。

このことは、対象が海でなくても同じだと思います。相手を愛するということは、何らかの形で相手に影響を与えてしまうことです。時には、自分が相手を愛したことによって、相手の状態を大きく変えてしまうという、責任が伴うことのようにも思います。そのように考えると、愛するというのは、なかなか怖いことだし、覚悟が要ることだなと感じます。私はクリスチャンではありませんが、ここでちょっと神様のことを想像してみると、きっと神様は私たちのような愛し方はなさらないのではないかなと思います。これは私の勝手な素人神様イメージですが、きっと、接近しすぎない愛し方をされる、という

か、少なくとも欲求に基づく愛し方はされな  
いだろうなと思います。でも私たちは人間なので、欲求から離れて何かを愛することはなかなか難しいことだと思いますが。

授業期間もあと1週間ほどとなりました。もうすぐ冬休みになりますが、私はこの冬休みも南の海に潜りに行く予定です。私は人間だし、海に対して「お近づきになりたい欲求」に基づく私なりの愛し方しかできないとは思っているのですが、せめて自分の身勝手な欲求を自覚しつつ、海との愛を深めてきたいと思っています。皆さんも、どうぞよいクリスマスをお迎えください。ありがとうございました。

(社会学部教授)